

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570101127
法人名	社会福祉法人 桐生会
事業所名	桐生園グループホーム
訪問調査日	2007年 10月 31日
評価確定日	2007年 12月 11日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年11月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2570101127
法人名	社会福祉法人 桐生会
事業所名	桐生園グループホーム
所在地	大津市桐生一丁目26番7号 (電話) 077-549-8661

評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会
所在地	滋賀県野洲市富波乙681-56
訪問調査日	平成19年10月31日

【情報提供票より】平成19年10月1日

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	18 人
常勤	9 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 5.5

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	平屋 建ての 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000~23,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円	○無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	(昼食に含む) 円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	草津総合病院 山中医院 みどりの丘歯科 奥村歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人桐生会が運営する高齢者総合福祉施設の一つとして平成14年4月に開設した。木造平屋建て2ユニット定員18名のグループホームである。「普通の生活」を目指し、生活環境を整え、日々話し合いながら取り組んでいる様子がうかがえた。家族アンケートに家族が良い点・優れている点、改善して欲しい点・気になる点の両方に多くの記述があった。家族とのつながりがとても良い関係にある。ホーム内は居室以外にもくつろげる空間が随所に設けられている。春には裏山の桜が満開になる。秋にはホームの畑で芋ほりができるなど自然環境に恵まれたホームである。同じ評価機関で3回目の評価となる。前回2回の評価は主に管理者での対応であったが今回は主任ケアワーカー2名での対応である。職員が評価に立ち会うことで現状を見直す一助になってほしい。又「現状に満足しているはサービスの質の向上につながる」との言葉からも、管理者のサービスの質の向上を目指していきたいとの熱い思いが伝わってくる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回も同じ評価機関の評価であった。要改善点はほとんどなくケアサービスにおいて食後3回の歯磨きの実施のみが課題にあげられていた。この課題については達成に向けて調整、検討を継続中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については各ユニットより担当者を決めて評価した。職員全員の意見を反映した自己評価になっている。「自分たちで考えることで日々の取り組みを見直す良いきっかけになった。」ということであり改善に向けて意見を出し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者の状況やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告している。昨年まではグループホームの運営推進会議を開催していた。今年より2~3ヶ月に1回桐生園(グループホーム含む)として運営推進会議を実施している。今までの関係を基に地域との理解と支援を得てサービスの質の向上をはかるとともに、桐生園と地域との共生を目指している。運営推進会議は始まったばかりである。今後に期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が個々に管理者に意見、苦情等を言われることが多い。管理者が直接話を聞き、取り組みの状況や今後の改善点について説明している。家族の意見を運営に生かしていくとする姿勢は十分にあり、家族に家族会の設立を持ちかけているが「今のままで十分である」と言われる家族が多いとのことである。会の設立については課題とし継続してほしい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の清掃に参加する。保育園の運動会に招待を受ける。グループホームの畑で園児と芋ほりをする。桐生園の夏祭りに地域より参加される。地域の夏祭りにホームより参加する等交流はある。外出時に出会ったときなどは挨拶を交わし、時には花や果物を頂くこともあるが、気軽に遊びに来てもらえるようにはなっていない。運営推進会議を開催し地域との共生に向けて取り組みが始められている

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	より良い環境の中で馴染みの関係を作り、活動的にすごせるように理念を作っている。		より良い環境の中で馴染みの関係を作り、活動的にすごせるように理念を作っている
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員全員が理念を理解し共有しており、理念の実践にむけて目標を決め日々取り組んでいる。		理念は玄関に掲示されており職員との対話でも、理念を理解し実践に取り組んでいる様子が伺えた。日々の生活の中で理念にある思いが実践できるように取り組んでほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃に参加する。、保育園の運動会に招待を受ける、グループホームの畑で園児と芋ほりをする。又園主催の夏祭りに地域より参加される、地域の夏祭りにグループホームより参加する等地域との交流が行われている。しかし地域住民が個人的に訪れるような関係には至っていない。		犬の散歩等ではお互いに挨拶をし、時には花や果物を頂くこともある。入居者を訪ねて地域の方が訪問されているが気軽に立ち寄られる関係にはいたっていない。地域との交流を継続していく中で将来的には地域の人々が気軽に訪問されるグループホームをめざしてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については各ユニットから2名の職員が担当で記入している。職員全員の意見を把握した上での記入であり、自己評価の過程とその結果については職員が共有している。		評価については、自己評価も含め普段何気なく行っていることを客観的に見直す良い機会であるとの考えの基、管理者、職員全員で改善に向けて意見を出し合い話し合っている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況を報告し、地域や家族の要望や意見を運営に取り入れている。評価結果、改善意見その後の取組みも報告している。	○	グループホーム単体での運営推進会議から今年度より桐生園が地域とどのように共生していくかとの視点で法人全体での運営推進会議を開催している。法人全体での運営推進会議と平行して、あるいはその中にグループホームの運営推進会議を組み込む等グループホームに焦点を当てた運営推進会議も継続し、グループホームのサービス向上に活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携については入居者が解決困難な問題を抱えている場合、その解決に向けて市との連携を密にして取り組んでいる。	○	入居者の抱えられている問題解決に向けて市との連携を密にしている。ケースを介しての行き来が主である。現在の関係を基にグループホームの質の向上に向けてよりいっそう取組まれることを望む。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の様子については各居室担当者が毎月近況報告を書き家族に送付している。この報告については様子が良くわかるとアンケートにも記述されている。職員の異動についても報告してほしいとの要望がある。		利用者の暮らしぶり等についての報告はされているが、職員の異動についてはあまり報告されていない。人事異動については母体組織との関係もありどの時点で、どこまで家族に知らせるべきなのだろうか、その報告時期が難しいとのことである。報告より家族の面会が先行する場合もありうる。しかし面会に訪れた時に、知らない職員になっていたら家族は不安になるのではないだろうか。職員一人ひとりの細やかな気づかいも必要となってくる。今後の報告、その後の対応について検討してほしい
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情受付窓口は玄関に表示してあり家族にも説明している。又苦情対策委員会も設置している。今の所家族が個々に管理者に言われることが多い。管理者が直接話を聞き取り組みの状況や今後の改善点について説明している。		アンケートにも家族が事業所の良い点、優れている点と改善してほしい点、気になる点についての両方に多くの記述があった。その中には管理者がすでに苦情を聞き説明済みの問題も多く含まれていた。家族が評価事業に安心と信頼を寄せているのだろうかということである。今後も家族が意見等を言いやすい関係そして職員は意見を受け止めその反映についての真摯な姿勢を持続してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来何度か職員の異動があった。新しく異動してきた職員には、入居者の情報・ケア方法等について伝達し、フォローするなどして入居者へのダメージがないように努めている		母体法人の組織が大きくグループホームも職員の異動を全く避けることは難しいと推測できる。今までと同様に職員間の連絡・連携を密にして利用者への影響を考慮し、配慮に努めてほしい。又以前は胸につけていた職員の名札を家庭的でないという理由ではずしたとのことである。家族からの意見を基に職員の名前がわかるように知恵を出し合って工夫して欲しい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH開設と同時に採用された新卒の職員が5年目を迎え、中堅として頑張っている。職員の段階に応じて外部研修に参加している。又月に1回園内研修が実施されグループホームの職員も参加している。		職員の段階に応じて外部研修に参加している。職員が研修に個人で参加することもある。又月に1回園内研修が実施されグループホームの職員も参加している。若い世代の職員が今後さらに経験や知識を身につけスキルアップしていくことを大いに期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々に外部研修に参加した場合や、他のグループホームの見学時に意見の交換はしている。継続性のあるものではない。	○	同業者との相互訪問は、気付きが得られるとても良い方法であり、職員にとっても新たな目で日々の介護方法を見つめる事ができる機会となるので、継続に向けて努力してほしい。相互の職員の交換研修など、検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に宿泊体験ができる機会をつくっている。体験等を通じて本人、家族と相談し納得の上で入居を決めてもらっている。		グループホームの入居については、本人、家族双方が納得の上で入居されるように支援している。
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な家事や散歩等を一緒にしている。そのなかで、特に料理や後片付けを通して入居者の体験したことや生活の知恵を教えてもらうことが多い。		入居者から見れば孫の世代にあたる職員も多い。入居者が体験した話を聞くことで多くの学びを得るということである。対等な関係のもと信頼関係をよりいっそう深めてほしい。
つ					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でアセスメントをしケアプランを作成している。日々の生活の中で入居者一人ひとりの思いを把握するように努め、その思いを実現できるようにカンファレンスを重ねている。		センター方式でアセスメントをしている。日々の生活の中で一人ひとりの思い等、気づきに努め記録に記している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者から話を聞き又月に一度はミーティングの時間を持っている。その中で意見や気づきを介護計画に反映している。		日々の介護記録に、職員の気づきが書かれており、それらも参考にしながら、また本人家族の意向も聞きながら介護計画が立てられている。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しているが、状態急変時にはその都度ミーティングをするとともに家族、主治医とも相談して新たな介護計画を作成している。		安定していると思われる入居者や、又本人・家族からの要望がない場合でも、毎月新鮮な目で見直し実践的な対応ができる介護計画の作成に向けて取り組みを継続してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の健康面については特養の看護師と連携をとっており、相談している。家族の要望で通院介助等をしている。		他の医療機関への入院が必要になった場合でも、連携をとり早期の退院に向けて努力している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からの主治医に健康管理の継続を依頼している。又地域の開業医にグループホームに来所してもらい診察を受けている。		これまでずっとつながりのあった主治医との連携を大切に考え、基本的には継続しての健康管理を依頼している。本人・家族の希望に添うようにしている。また家族の要望で通院介助をしている。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化によりホームでの生活が難しくなりつつある段階で家族、職員と話し合い、今後の方針について共有している。管理者は限界と感じてからなおグループホームでできることを模索していきたいとの思いがある。そのため3ヶ月～6ヶ月の期間の中で慎重に今後の方針を決めている。	○	入居の段階で重度化や終末期に向けてのグループホームとしての基本方針の説明がある。ホームでの生活が難しくなった時期から一人ひとりの状態に即した今後の対応も話し合っている。この二段階での話し合いにより更に方針の共有をすることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が意識を高く持つことで実行できている。		職員の表情は皆明るい。言葉掛けも穏やかで自然である。利用者を大切にしたいと言う気持ちが感じられる雰囲気であった。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりは出来るだけ少なくしている。一人ひとりのペースに添った対応が試みられている。		「その人らしい暮らしとは？」と日々考え続ける職員集団の中で、工夫により良い支援に繋げてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入、調理や後片付けを入居者と一緒に行われている。職員も間に入ってさりげなく介助しながら食事している。当日も食後の後片付けを入居者と職員が和やかにされていた。		入居者はおもいおもいのペースで食事を摂っていた。落ち着いて食事ができにくい入居者には職員がさりげなく傍について援助し、他の入居者にも配慮してその場の雰囲気を変えないように努めていた。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の配置上、入浴の時間は午後になっている。しかし入居者の実情により(身体が不潔な状態になる)午前に入浴するなど必要に応じて個別対応はしている。		入浴の時間は基本的には午後からになっている。今のところ入浴時間についての要望はない。個人的に入浴時間を希望される入居者がある場合は、個別に対応していきたいとの思いは持っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般において入居者に合わせた支援をしている。調査日当日も職員に付き添われ入居者が笑顔でごみ出しに行かれていた。		一人ひとりにあった役割や楽しみの更なる追求に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日食材の購入に近くのスーパーまで交代で行っている。犬の散歩、ごみ収集場までのごみ出しに行く等、積極的に外出の機会を持っている。		食材だけでなく買物は、個人的な個別の買物もしている。、自分で金銭管理をしている方を除き、その時にお金を渡して買い物ができるように支援している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。玄関の出入りについてはセンサーがなるようにしてあるが、その音もあまり気にならなかった。防犯の面から、夜間は施錠をしている。		昼間は鍵をかけていない。各ユニットの玄関にはセンサーがあるが、職員が一人ひとりの入居者の居場所を自然な形で把握するように努めている。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の防災計画にのっとり年3回防火、非難訓練をしている。		法人の防災計画にのっとり年3回防火、非難訓練をしている。実際の訓練は、入居者も一緒にするのが本当かもしれないが、あとで混乱し不穏になる方もおられるので実施していない。まず予防は火を出さないことであると言われて、常に火の用心に心がけている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はされていないが栄養のバランスには偏りがないように献立をたてている。摂食量や摂取した水分量は注意を払い記録している。水分摂取量の少ない人には個別に常時水分を準備する等の支援している。		カロリー計算はされていないが栄養のバランスには偏りがないように献立をたてている。時には法人内の管理栄養士からアドバイスを受けることもある。摂食量や摂取した水分量は注意を払い記録している
王が					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には椅子等が置かれゆっくりとくつろげる空間が随所にある。		各所にソファや椅子が置かれ自由に過ごせる空間が多く用意されている。又そのスペースが独立したような空間となっていて落ち着いた雰囲気である。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に「部屋ごとの引越し」をお願いしている。危険のない限り使い慣れた身のまわり品もちこんでもらえるようにしている。が持ち込まれる人は多くはないとのことである。		家族やペットの写真が飾られていたり、家具や日用品が整理整頓された部屋で居心地のよさを感じた。